



親たちの子育て不安アンケート



「子どもの学力低下が心配」「わが子が凶悪事件の被害者や加害者にならないか心配」「子どもが何を考えているのかわからない」……。高度経済成長期を経て、核家族化が進み、人と人とのつながりが希薄になる中で、子どもをどう育てればいいのかかわからない親が増えている。また、非行の低年齢化や、中学生、小学生による凶悪事件が相次ぐなど、親たちの不安は広がるばかりである。ベネッセの調査によると、子どもたちの思春期は10年前よりも早まっており、かつては中学2年頃～始まっていた思春期は、今では小学校5年生ころから始まるとも言われている。学校のことを話さなくなったり親に対する言葉遣いが荒れるなど、戸惑う親も少なくない。

一方で、「反抗期」をなくした子どもも増えているという。その背景には、生活が豊かになり、欲しいものが簡単に手に入るようになった、あるいは、個人・自分らしさを重視する時代に育った親世代は、子どもを厳しく規制することがなくなった、などの理由が考えられるが、だれしも親の求める子ども像と、子どもの本来ありたい姿との葛藤に悩み、それを乗り越え、大きく成長してきたはずだ。反抗期をなくした子ども達は、飛躍の機会を失い、それが、ひきこもりの高年齢化やパラサイトシングルが増加にもつながっているのではないかという気がする。

非行少年たちのイメージも、一昔前とは大違いである。小学校の低学年から塾に通い、厳しい受験を潜り抜け、有名私立校に通う子どもたちが、特に悪びれることもなく、援助交際やドラッグに手を初めたりする。

このような変化を見ていると、小学生の子ども像、中学生の子ども像、といった、ある一つのイメージで子どもを語ることが難しい時代になっているのでは、と感じる。そうでなくても思春期の子どもたちは、自分の本当の姿をなかなか親たちには見せようとししないのだ。

「うちの子にかぎって」と何の根拠もなく信じていられる時代はもう終わった。親たちは、みな不安に思っている。いったい、われわれ大人たちは、子どもをどう育てていけばいいのだろうか。

本アンケートでは、親たちはが、子どもをとりまくさまざまな問題に対し、どう思っているのか、子育てについて、具体的にどのようなことで不安を感じ、どのような悩みを抱えているのかを尋ねてみた。



調査期間 : 2005年 1月14日 ~ 2月15日

調査方法 : 学びの場.com上のアンケートフォームに入力 送信

調査項目

・親の教育態度

・子どもの生活環境について

・子どもと勉強

・子どもの精神状態

・子どもについての心配ごと

・親の教育力

・子どもと思春期

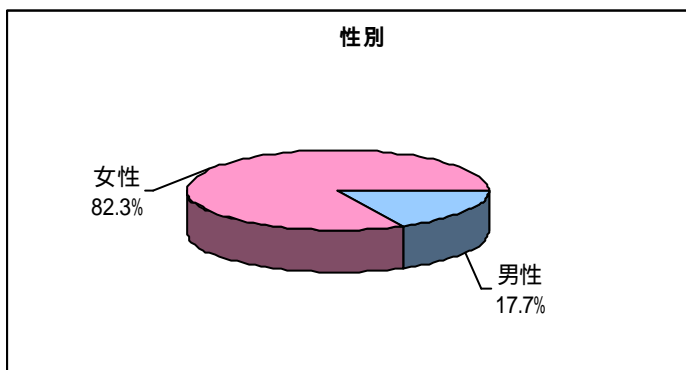
回答数 : 未就学児 (保育園・幼稚園児) ~ 高校生の子どもの持つ親 538名



回答者の属性

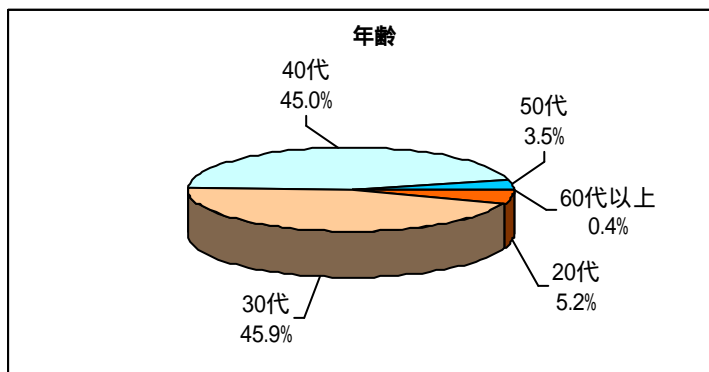
男女別

	合計	男性	女性
全体	538	95	443
	100%	17.7%	82.3%



年代

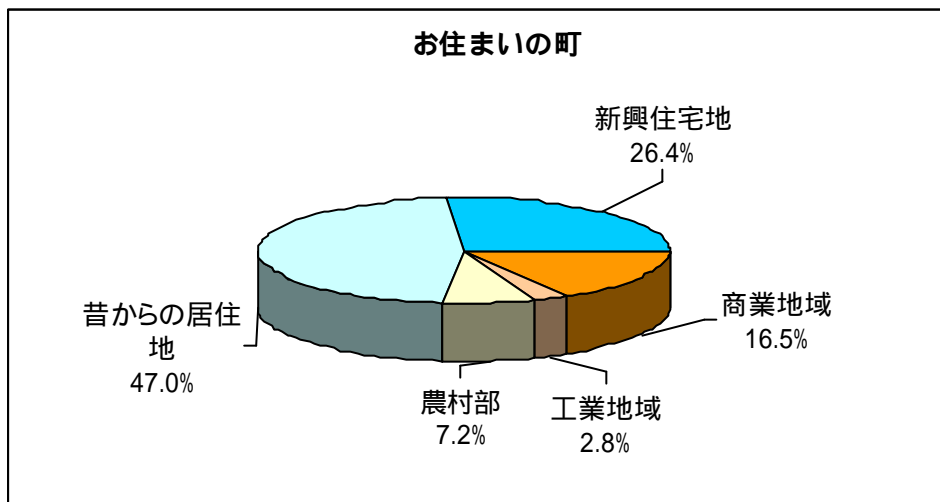
	合計	20代	30代	40代	50代	60代以上
全体	538	28	247	242	19	2
	100%	5.2%	45.9%	45.0%	3.5%	0.4%





住んでいるところ

	合計	商業地域	工業地域	農村部	昔からの居住地	新興住宅地
全体	538	89	15	39	253	142
	100%	16.5%	2.8%	7.2%	47.0%	26.4%

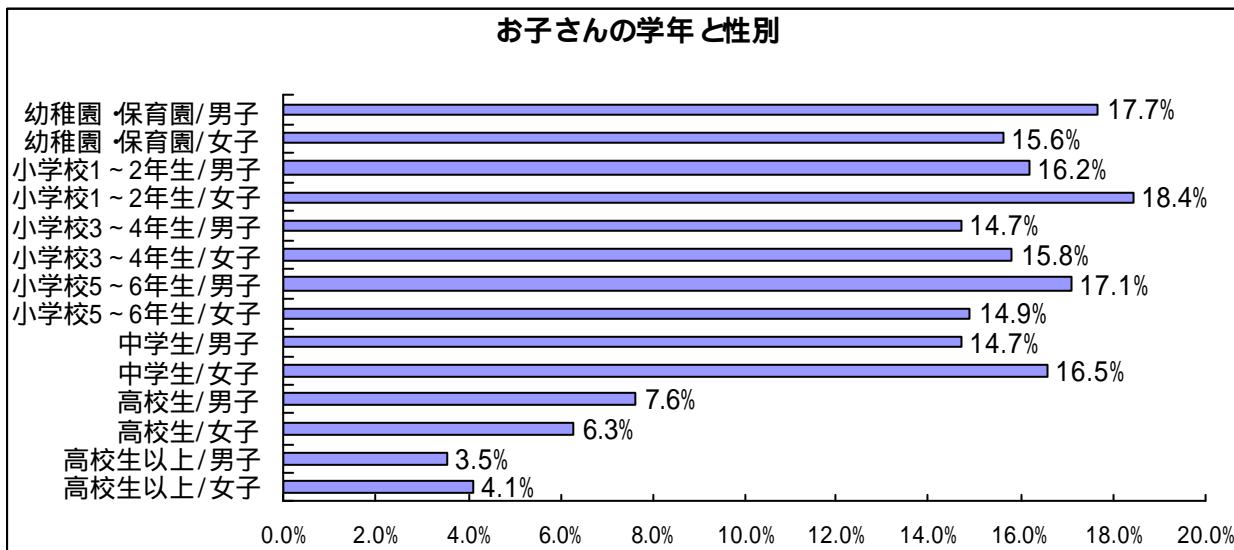




子どもの年齢

合計	538	
幼稚園・保育園/男子	95	17.7%
幼稚園・保育園/女子	84	15.6%
小学校1～2年生/男子	87	16.2%
小学校1～2年生/女子	99	18.4%
小学校3～4年生/男子	79	14.7%
小学校3～4年生/女子	85	15.8%
小学校5～6年生/男子	92	17.1%
小学校5～6年生/女子	80	14.9%
中学生/男子	79	14.7%
中学生/女子	89	16.5%
高校生/男子	41	7.6%
高校生/女子	34	6.3%
高校生以上/男子	19	3.5%
高校生以上/女子	22	4.1%

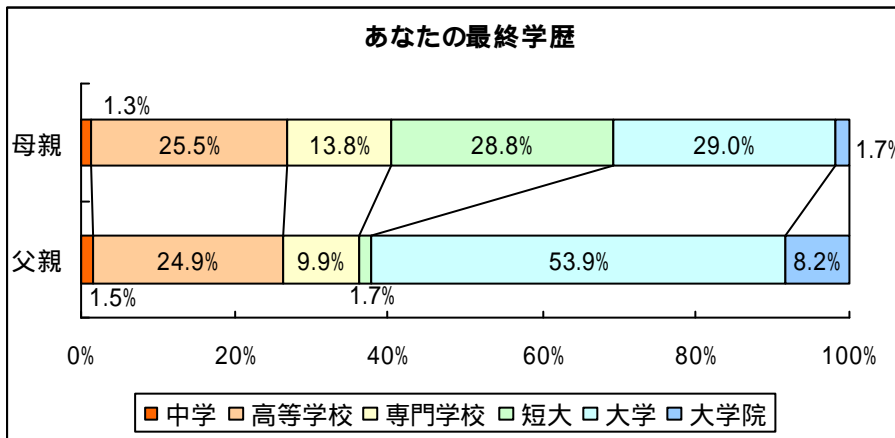
お子さんの学年と性別





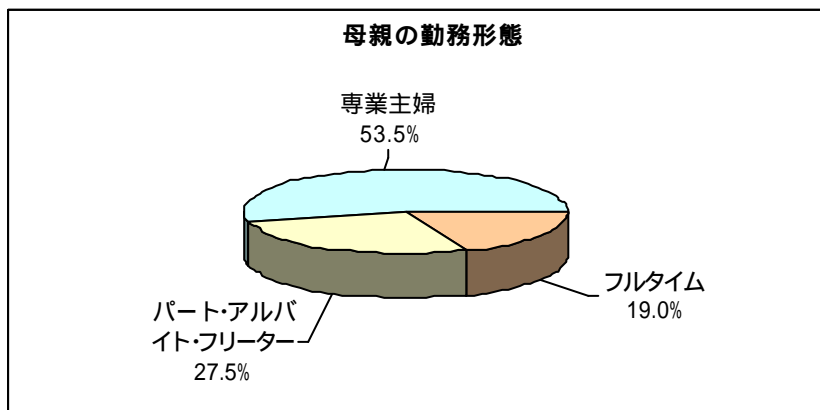
親 (回答者およびその配偶者)の最終学歴

	合計	中学	高等学校	専門学校	短大	大学	大学院
母親	538	7	137	74	155	156	9
	100%	1.3%	25.5%	13.8%	28.8%	29.0%	1.7%
父親	538	8	134	53	9	290	44
	100%	1.5%	24.9%	9.9%	1.7%	53.9%	8.2%



母親の勤務形態

	合計	フルタイム	パート・アルバイト・フリーター	専業主婦
全体	538	102	148	288
	100%	19.0%	27.5%	53.5%



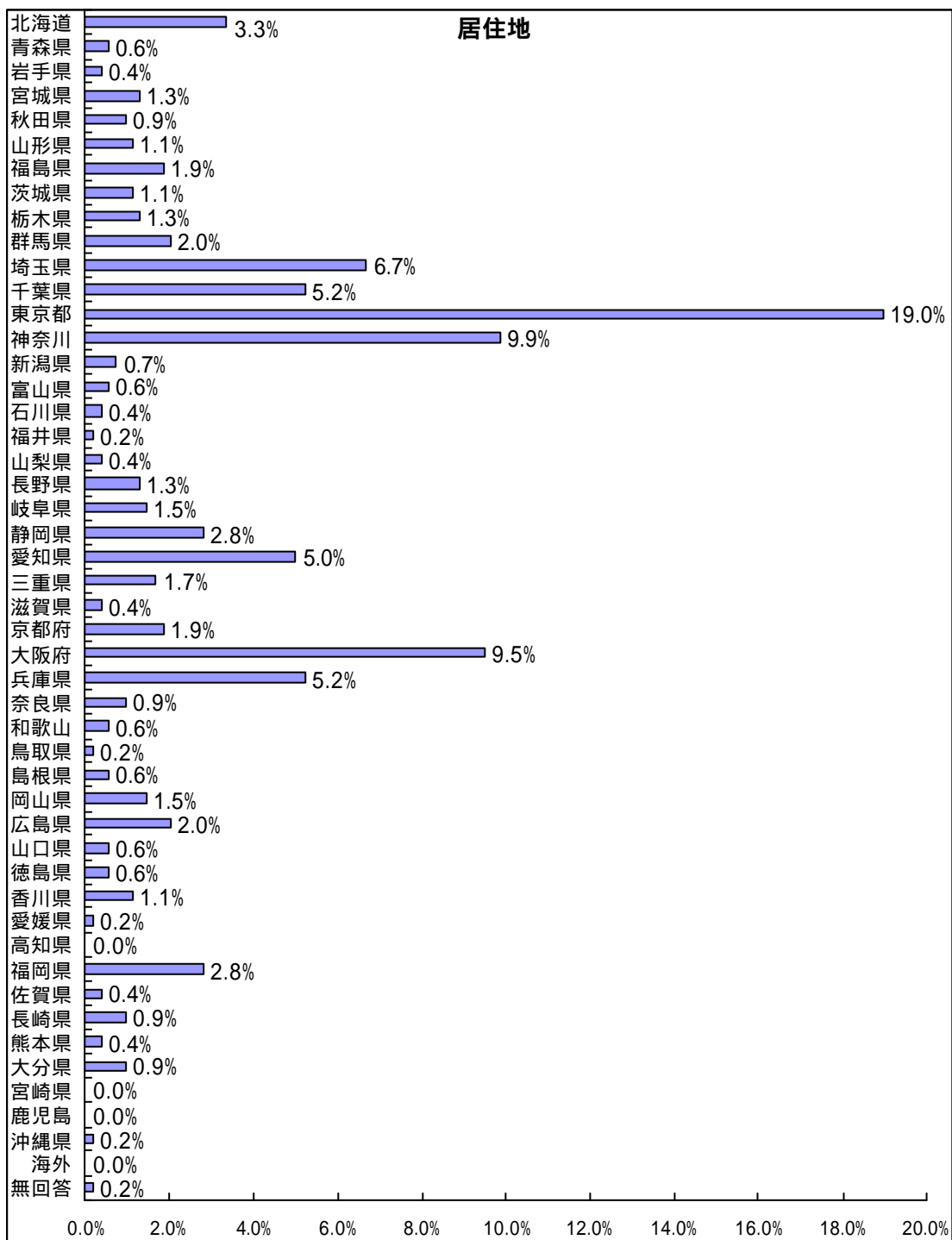


回答者の居住地

合計	538	100%
北海道	18	3.3%
青森県	3	0.6%
岩手県	2	0.4%
宮城県	7	1.3%
秋田県	5	0.9%
山形県	6	1.1%
福島県	10	1.9%
茨城県	6	1.1%
栃木県	7	1.3%
群馬県	11	2.0%
埼玉県	36	6.7%
千葉県	28	5.2%
東京都	102	19.0%
神奈川県	53	9.9%
新潟県	4	0.7%
富山県	3	0.6%
石川県	2	0.4%
福井県	1	0.2%
山梨県	2	0.4%
長野県	7	1.3%
岐阜県	8	1.5%
静岡県	15	2.8%
愛知県	27	5.0%
三重県	9	1.7%
滋賀県	2	0.4%
京都府	10	1.9%
大阪府	51	9.5%



兵庫県	28	5.2%
奈良県	5	0.9%
和歌山県	3	0.6%
鳥取県	1	0.2%
島根県	3	0.6%
岡山県	8	1.5%
広島県	11	2.0%
山口県	3	0.6%
徳島県	3	0.6%
香川県	6	1.1%
愛媛県	1	0.2%
高知県	0	0.0%
福岡県	15	2.8%
佐賀県	2	0.4%
長崎県	5	0.9%
熊本県	2	0.4%
大分県	5	0.9%
宮崎県	0	0.0%
鹿児島県	0	0.0%
沖縄県	1	0.2%
海外	0	0.0%
無回答	1	0.2%



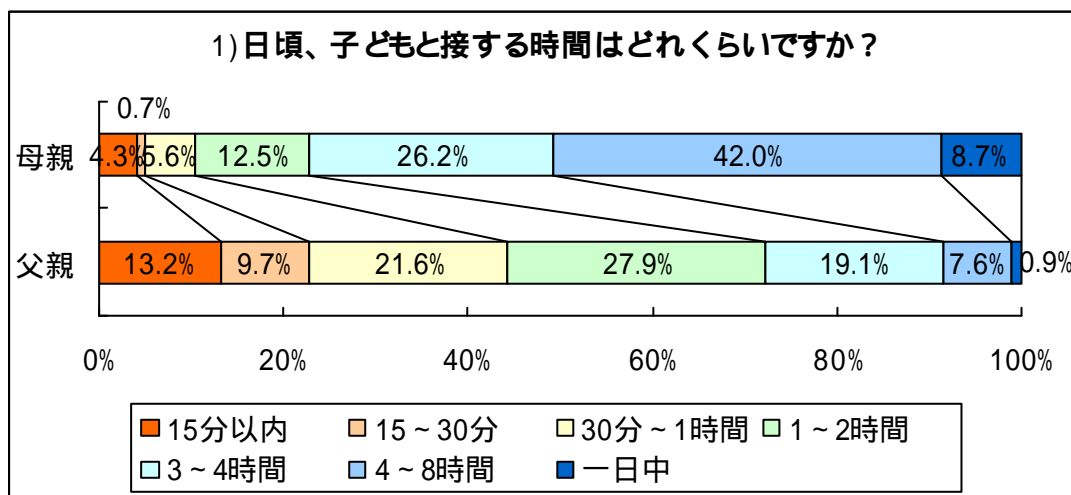


【1】親の教育態度

(1)子どもと接する時間

当然ながら 子どもと接する時間は、母親のほうが圧倒的に長い。母親では 4～8時間が最も多く42%である。今回の調査では未収園児の親は対象外なので、専業主婦であっても「一日中」という回答はないはずなのだが、9%となっている。この中には不登校、ひきこもりも含まれるのかもわからない。父親が子どもと接する時間については、1～2時間が最も多い。朝食時、寝る前のわずかな時間の合計、といったところだろうか。

	合計	15分以内	15～30分	30分～1時間	1～2時間	3～4時間	4～8時間	一日中
母親	538	23	4	30	67	141	226	47
	100%	4.3%	0.7%	5.6%	12.5%	26.2%	42.0%	8.7%
父親	538	71	52	116	150	103	41	5
	100%	13.2%	9.7%	21.6%	27.9%	19.1%	7.6%	0.9%

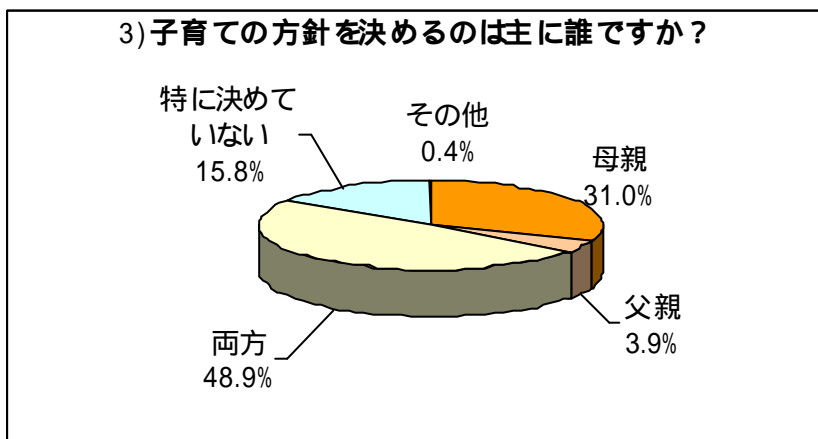




(2)子育ての方針を決めるのは主に誰？

49%が、父親母親両方と答えた人が49%、母親と答えた人は31%。父親は4%に過ぎない。しかし、一昔前は「男は仕事、女は家庭」「子どものことは全部母親まかせ」が当たり前だったのではないだろうか。現代の多くの家庭では、こうした性別役割分担があいまいになり、父親も積極的に育児参加をするようになってきたと言える。

	合計	母親	父親	両方	特に決めていない	その他
全体	538	167	21	263	85	2
	100%	31.0%	3.9%	48.9%	15.8%	0.4%

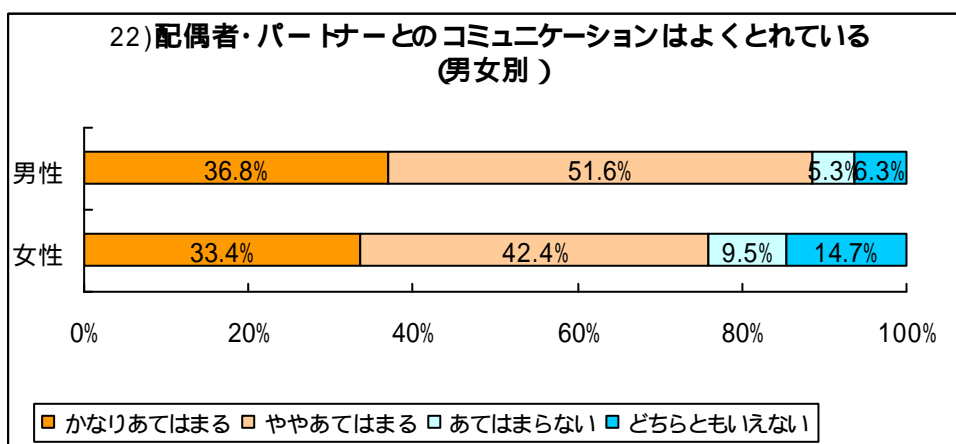




(3) 配偶者・パートナーとのコミュニケーションはよく取れているか

配偶者・パートナーとのコミュニケーションがよく取れているか、については、当てはまる、ややあてはまるを合わせて78%。男女別で見ると、男性のほうが若干、夫婦間のコミュニケーションについて楽観的である。夫婦間の不和やコミュニケーション不足は、子どもにとって、大きな脅威である。家庭が安心できる場にはりえず、子どもの心理面にさまざまな影響を及ぼすと言われている。その点では、今回のアンケートの対象となった家庭の子どもたちは、かなり安定し、めくまれた家庭環境にあると考えられそうである。

	合計	かなりあてはまる	ややあてはまる	あてはまらない	どちらともいえない
全体	538	183	237	47	71
	100%	34.0%	44.1%	8.7%	13.2%
男性	95	35	49	5	6
	100%	36.8%	51.6%	5.3%	6.3%
女性	443	148	188	42	65
	100%	33.4%	42.4%	9.5%	14.7%



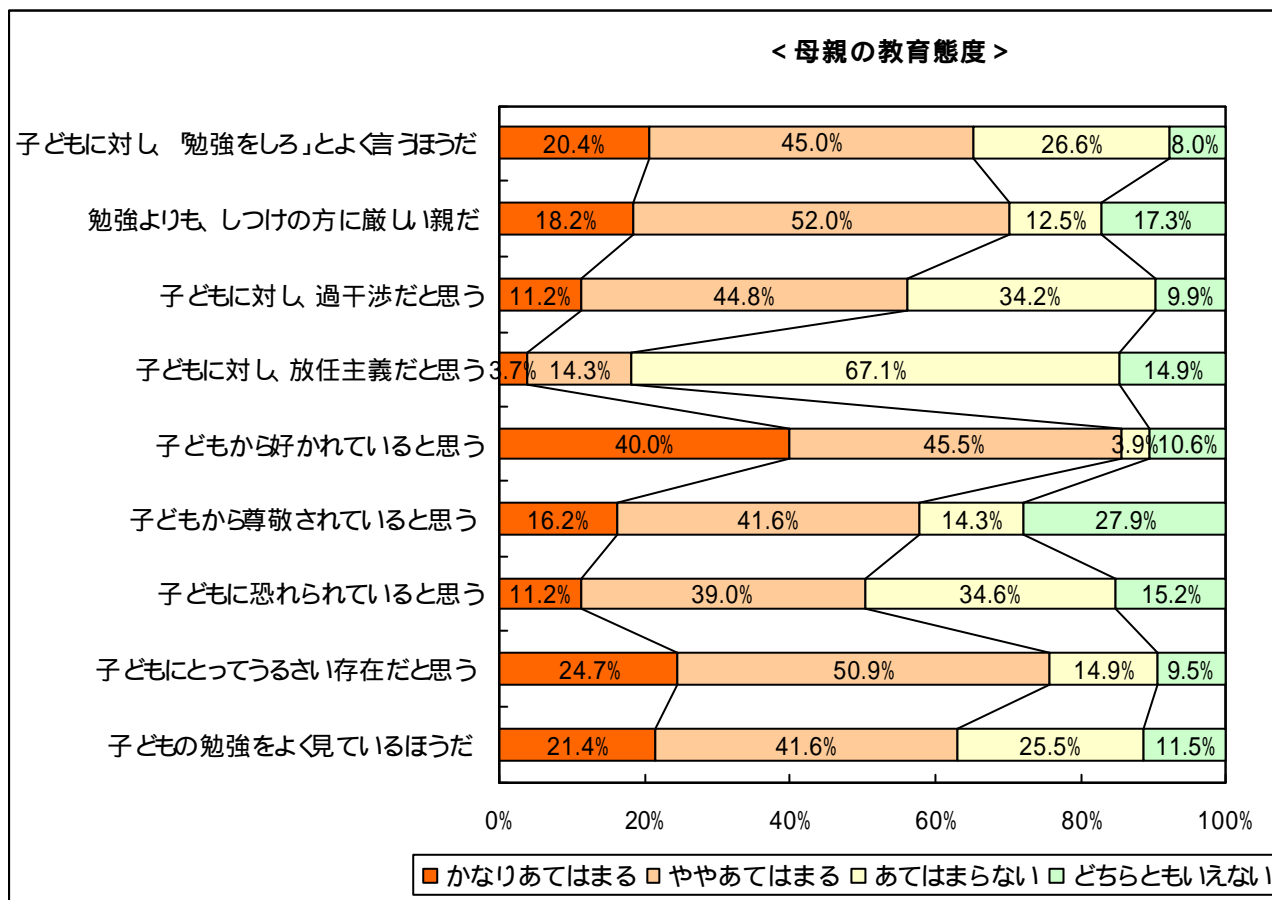


(4)父親と母親の子育て方針

家庭内暴力や、不登校・ひきこもりなど、なんらかの問題を抱えている家庭の典型が「厳格すぎる父と過干渉の母親」の組み合わせだという。今回の回答者はどうであろうか。

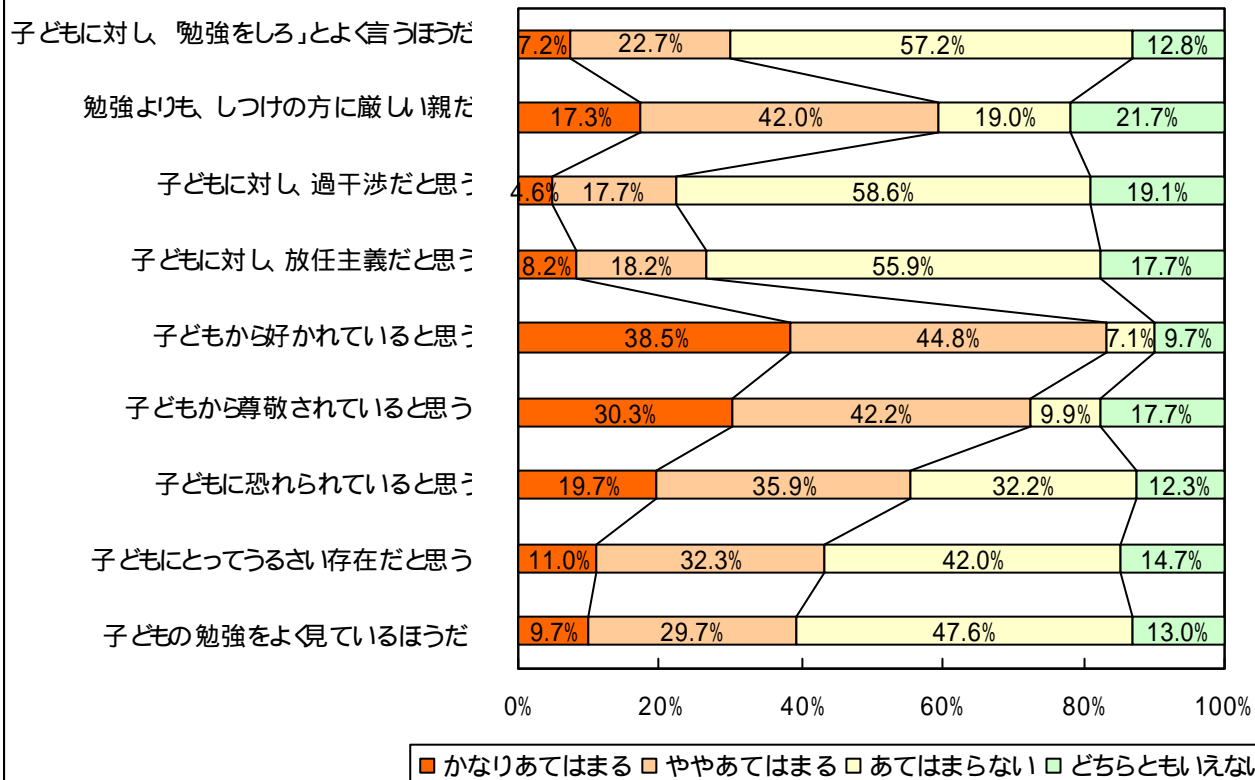
アンケート結果を見る限り、母親のほうが、しつけに厳しく、勉強をしるとよく言い、子どもにとって過干渉でうるさい存在のようである。勉強をよく見てあげるのも母親のほうである。

また、今回の回答者は、学びの場.comを見て回答していることから教育に関心が高い保護者であると推察できる。そのためか、「自分は放任主義」であると答えた人は全体で20%弱にとどまった。また、子どもに好かれている、尊敬されている、と答える人が多く、親子の信頼関係もよく形成されていると考えられる。ただし、これは親側の回答。子どもの意見を聞きたいところである。





< 父親の教育態度 >

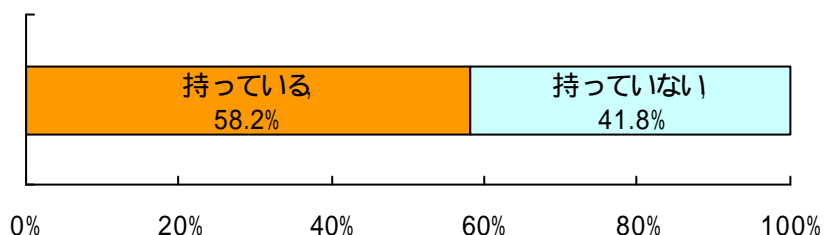




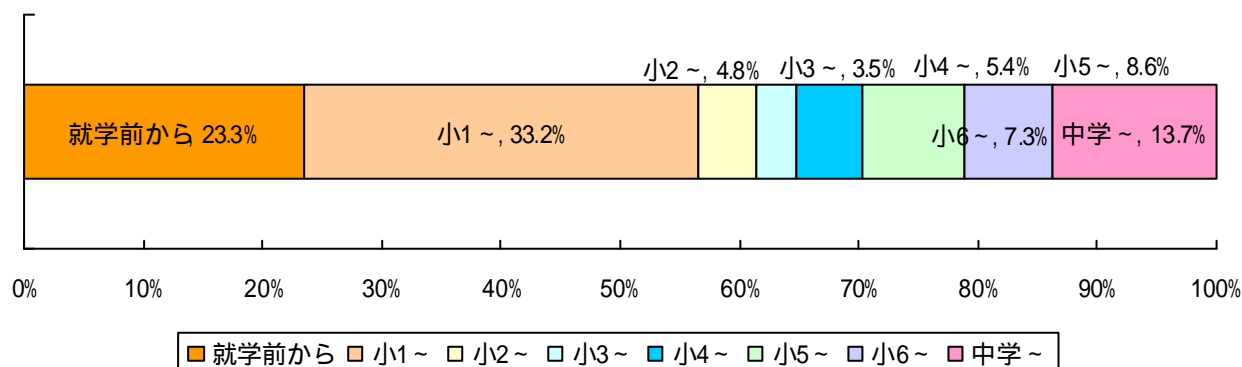
(5)子どもは個室を持っている？ 与えたのはいつから？

小学校入学をきっかけに個室を与える家庭が最も多く33%。次いで就学前から与えられている子が23%。私が子どもの頃は、小学校中学年になる頃から個室が欲しい、と親に言うようになり、何度もお願いして、小学校高学年でようやく与えられた記憶がある。未就学児や小学校低学年では、欲しいと切望する以前にすでに与えられていると考えられる。親に対して秘密を持ち始め、「親に干渉されたくない」という気持ちが高まって、ようやく与えられる。そういう経験がないということが、冒頭の、「反抗期をなくした子どもたち」にもつながるのかも知れない。

1) 子どもは個室を持っていますか？



2) はいの人にお尋ねします。個室を与えたのは何歳から？

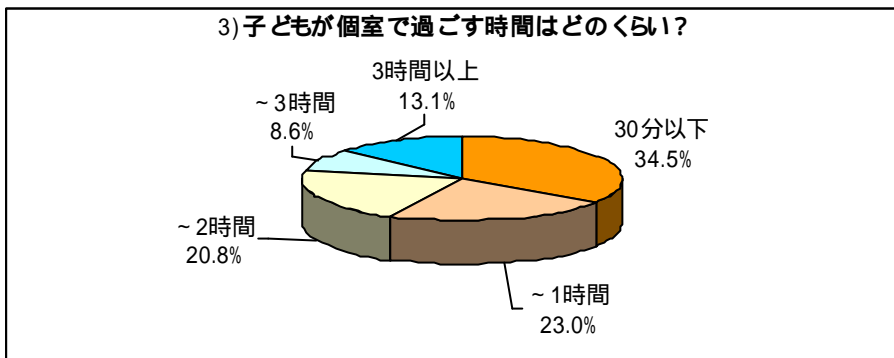




(6)子どもが自室で過ごす時間

30分～1時間で約6割を占める。個室はあるとはいえ、まだまだ家族と過ごす時間のほうが長いと言える。

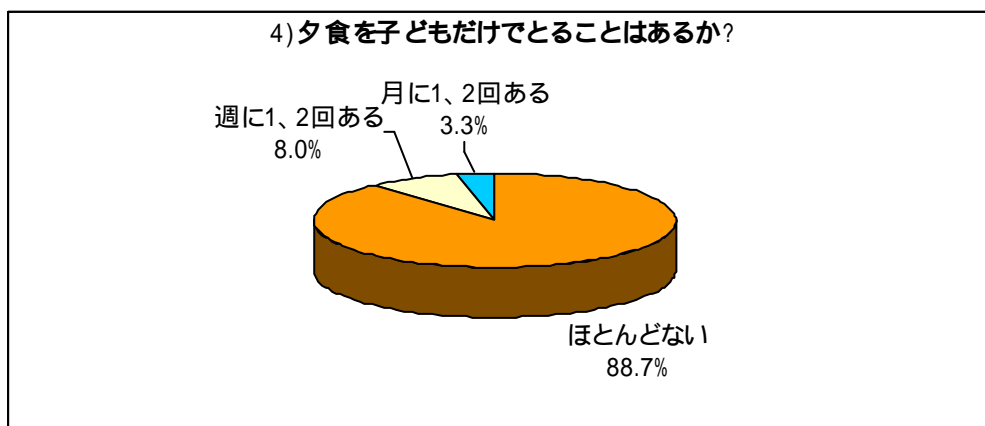
	合計	30分以下	～1時間	～2時間	～3時間	3時間以上
全体	313	108	72	65	27	41
	100%	34.5%	23.0%	20.8%	8.6%	13.1%



(7)夕食を子ども一人でとることはあるか

ほとんどない、が約90%を占めるとはいえ、週1、2回、あるいは月に1、2回は子どもだけで食事をする子が11%程度いるという結果に。進学塾では、弁当を持参し、夕食を塾で食べるというところもある。11%にはこのようなケースも含まれていると考えられる。あるいは、両親とも働いていて帰りが遅い日がある、ひきこもりで、家族と食事をしない、という子どもも含まれるのかも知れない。

	合計	ほとんどない	週に1、2回ある	月に1、2回ある
全体	538	477	43	18
	100%	88.7%	8.0%	3.3%

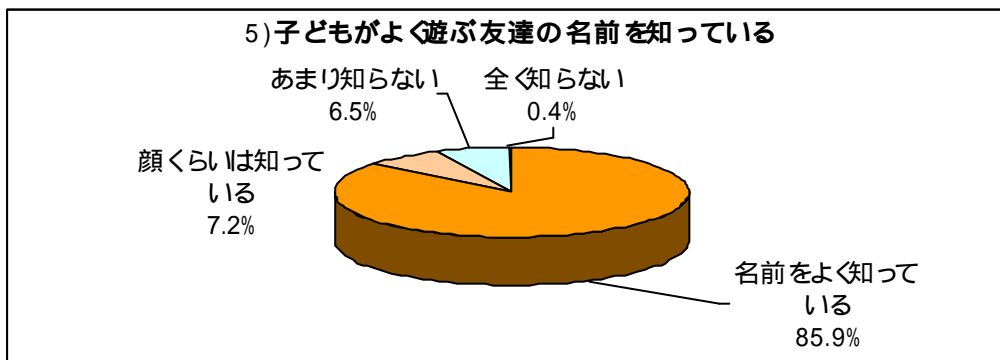




(8)子どもの友だちの名前

名まえをよく知っている親が86%、顔くらいは知っている7%、と合わせると92%の親が、子どもの友だちに関心を持っていることがわかる。しかし、「あまり知らない」「まったく知らない」と答えた人も7%。子どもたちが非行や、援助交際、ドラッグに手を初めるきっかけは、友人からの情報によることも少なくない。子どもがどのような友人と付き合っているかは、親として把握しておくできではないだろうか。

	合計	名前をよく知っている	顔くらいは知っている	あまり知らない	全く知らない
全体	538	462	39	35	2
	100%	85.9%	7.2%	6.5%	0.4%



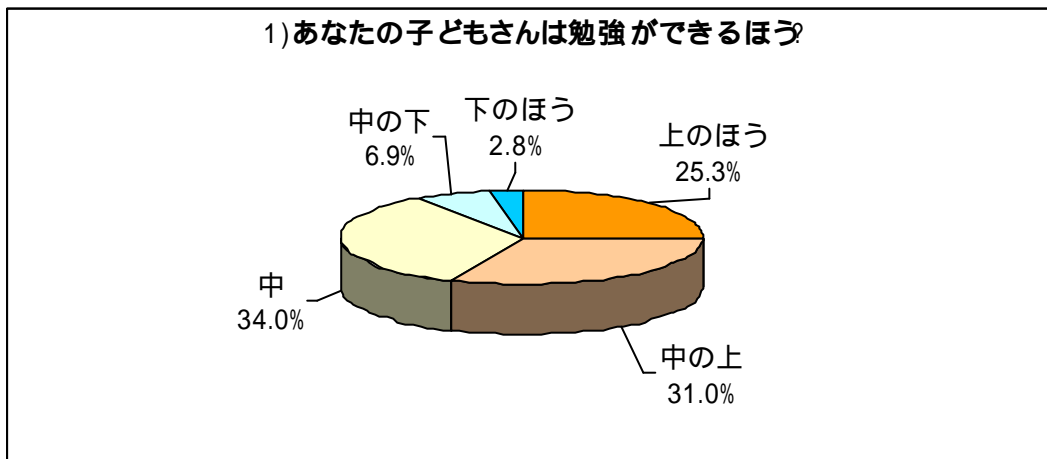


【2】子どもの生活環境について

(1)子どもの成績について

自分の子どもの成績について、聞いたところ、「中」と答えた親が最も多く34%、「中の上」31%、「上のほう」25%と続く。「中の下」「下のほう」は合わせて10%である。

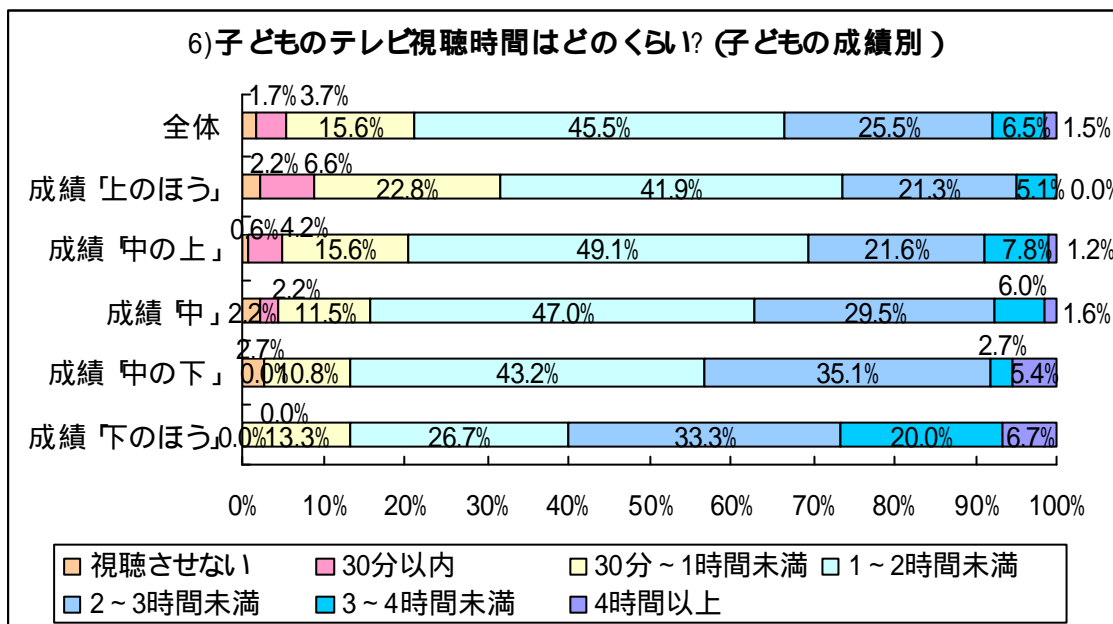
	合計	上のほう	中の上	中	中の下	下のほう
全体	538	136	167	183	37	15
	100%	25.3%	31.0%	34.0%	6.9%	2.8%





(2)子どものテレビ視聴時間について

全体では1～2時間未満が最も多く46%、次いで2～3時間未満26%となっている。視聴させないとの回答も約2%あった。子どもの成績別で見ると、成績が「上のほう」の子どもよりも「下のほう」の子どものほうが、視聴時間が長いことがわかる。尾道市立土堂小学校の蔭山英夫先生は、長い現場経験と、学校で行った調査から、「テレビを長時間視聴する子どもで成績のいい子はいない」と断言しているが、この調査にもその傾向は出ているようである。



テレビ視聴の制限については、時間を制限26%、見る番組を制限31%など、なんらかの制限を設けている家庭が82% (複数回答)に上った。

7)子どものテレビ視聴時間について制限を設けている

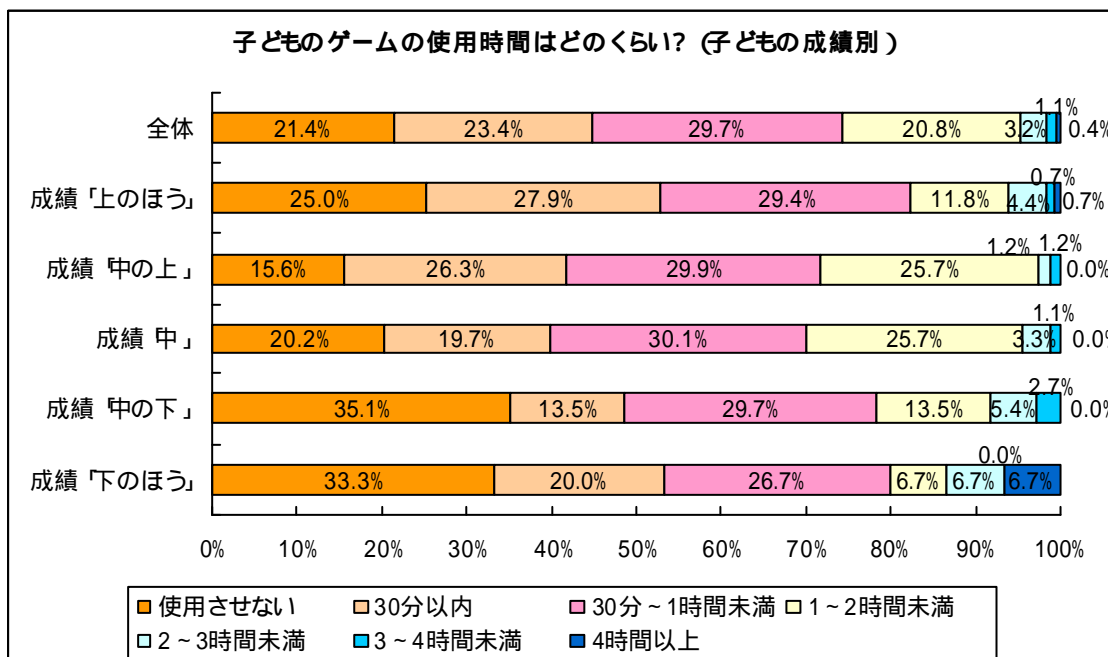
	合計	視聴時間を制限	見る番組を制限	その他のルールを設定	制約なし	無回答
全体	538	139	167	135	179	11
		25.8%	31.0%	25.1%	33.3%	2.0%



(3)子どものゲームの使用時間について

全体では、30分～1時間未満が最も多く30%、次いで、30分以内で23%。使用させない家庭は21%となった。成績順に見ると、成績の「上のほう」と「中の下」「下のほう」で「使用させない」割合が高い。また、テレビほど、成績による顕著な差はなく、だいたい30分～1時間未満が中心である。

	合計	使用させない	30分以内	30分～1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4時間以上
全体	538	115	126	160	112	17	6	2
	100%	21.4%	23.4%	29.7%	20.8%	3.2%	1.1%	0.4%
成績「上のほう」	136	34	38	40	16	6	1	1
	100%	25.0%	27.9%	29.4%	11.8%	4.4%	0.7%	0.7%
成績「中の上」	167	26	44	50	43	2	2	0
	100%	15.6%	26.3%	29.9%	25.7%	1.2%	1.2%	0.0%
成績「中」	183	37	36	55	47	6	2	0
	100%	20.2%	19.7%	30.1%	25.7%	3.3%	1.1%	0.0%
成績「中の下」	37	13	5	11	5	2	1	0
	100%	35.1%	13.5%	29.7%	13.5%	5.4%	2.7%	0.0%
成績「下のほう」	15	5	3	4	1	1	0	1
	100%	33.3%	20.0%	26.7%	6.7%	6.7%	0.0%	6.7%





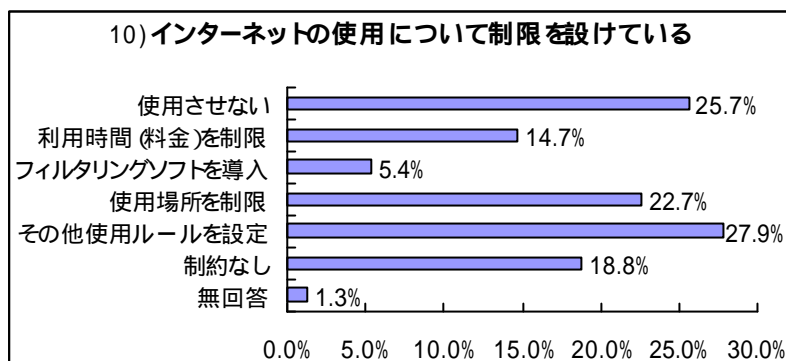
ゲーム使用の制限については、時間を制限が48%、使用場所の制限が16%など、なんらかの制限を設けている家庭は91% (複数回答)で、テレビよりもさらに多くなっている。

	合計	利用時間を制限	使用場所を制限	その他使用のルールを設定	制約なし	無回答
全体	538	260	85	145	94	70
		48.3%	15.8%	27.0%	17.5%	13.0%



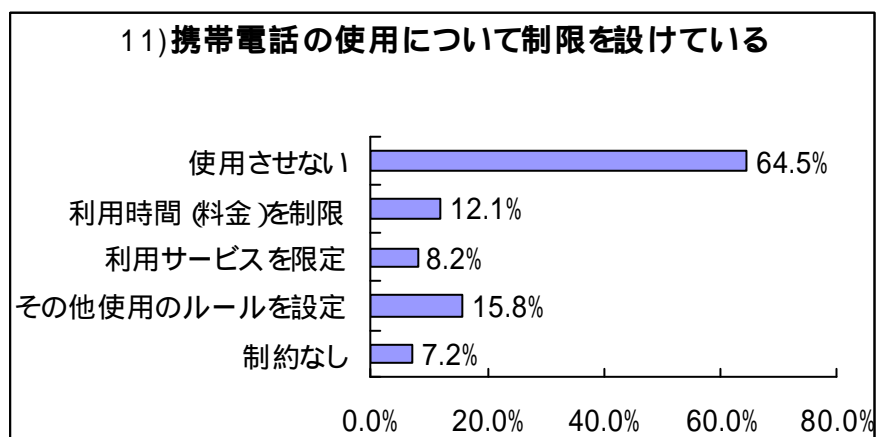
(4)インターネットの使用について

インターネットについては、使用について、なんらかの制限を設けている家庭が106% (複数回答)となった。しかし、制限の中でもフィルタリングソフトの導入までしている家庭は5%にとどまった。



(5)携帯電話の使用について

携帯電話については、「使用させない」と答えた家庭が65%、使用時間、利用サービス、などの制限を設けている家庭は34%である。

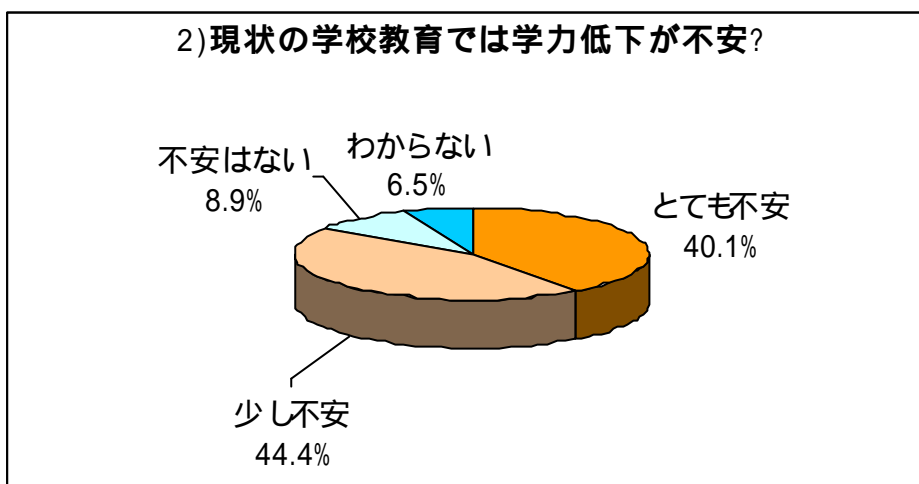




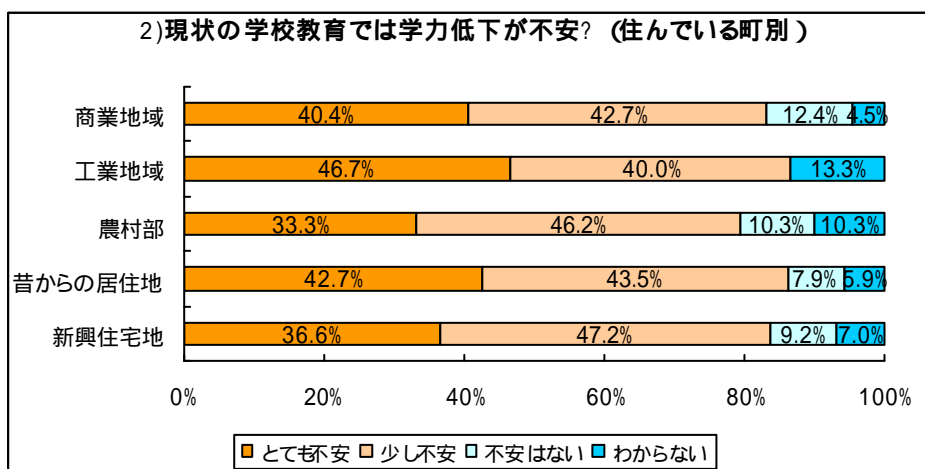
【3】子どもと勉強

(1)現状の学校教育では学力低下が不安？(複数回答)
 「不安」「少し不安」を合わせると85%が不安と答えている。

	合計	とても不安	少し不安	不安はない	わからない
全体	538	216	239	48	35
	100%	40.1%	44.4%	8.9%	6.5%



これを地域別でみると、「昔からの住宅地」、「工業地域」で若干不安に思う人の割合が高くなっている。





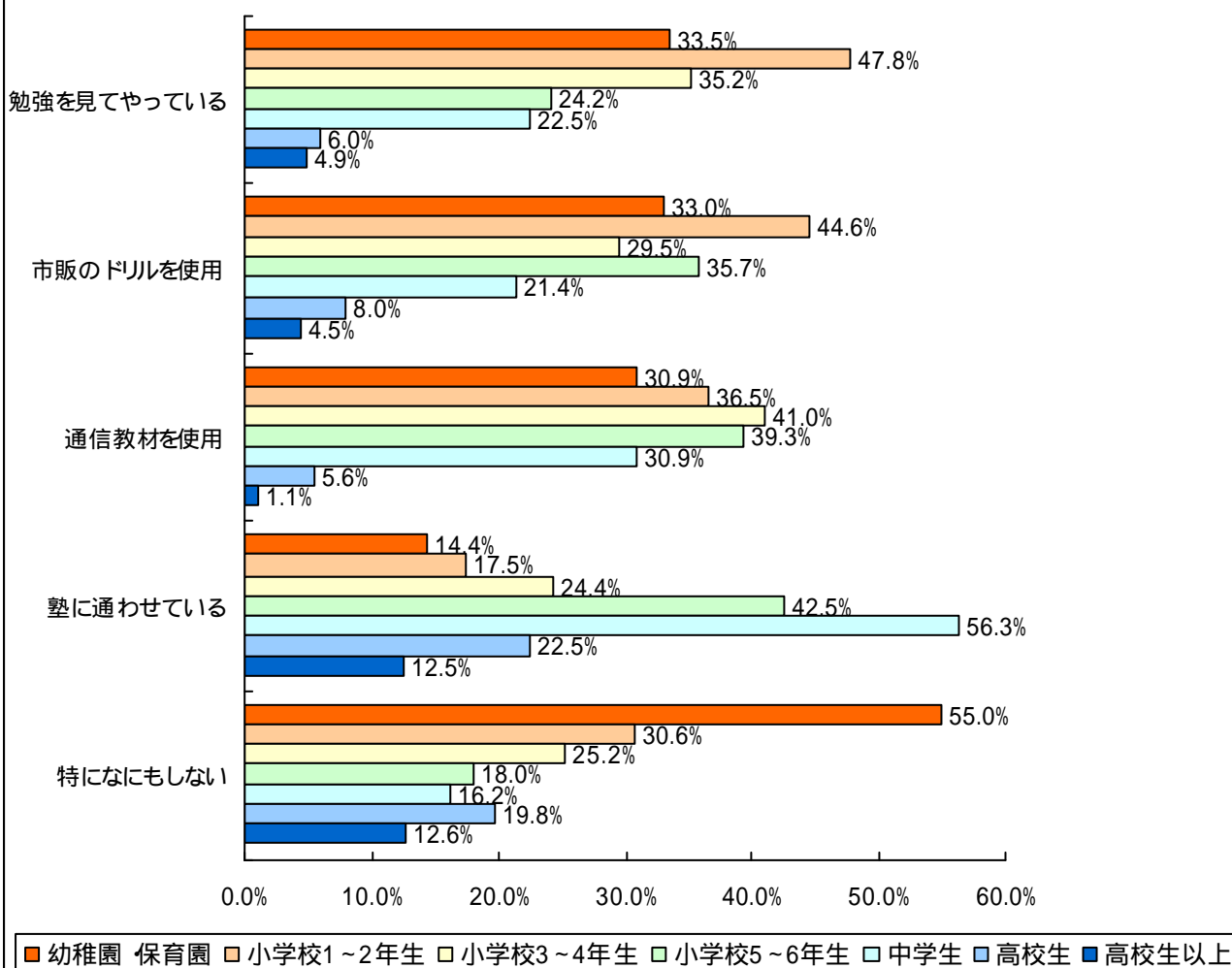
対策については、勉強を見てやっている、が最も多く、34%。次いで通信教材の使用が33%、塾に通わせている家庭も30%となった。

これを子どもの年齢別に見ると、幼稚園・保育園児の親では「何もしない」が最も多く55%、小学校低学年、中学年の親ではいずれも勉強を見てやっている」が最も多く、それぞれ48%、35%を占める。これが、小学校高学年以降になると、塾に通わせる」が最も多くなり、小学校高学年で42%、中学校で56%、高校で23%となる。

高校生では「何もしない」が塾に次いで多いが、高校生くらいになると、進学する、しないの選択を迫られる時期であり、進学しないと決断した子どもも出てくるためと考えられる。

	合計	勉強を見てやっている	市販のドリルを使用	通信教材を使用	塾に通わせている	特になにもしない
全体	538	182	112	178	160	111
		33.8%	20.8%	33.1%	29.7%	20.6%

3) それに対し、何か対策をとっている<子供の年齢別>

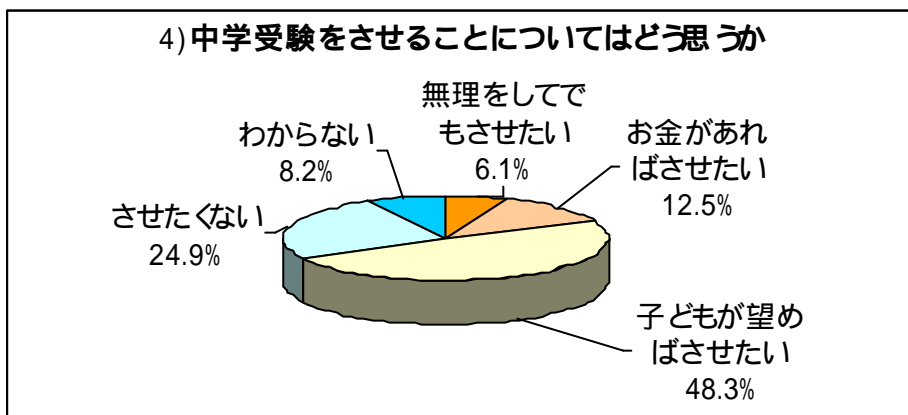




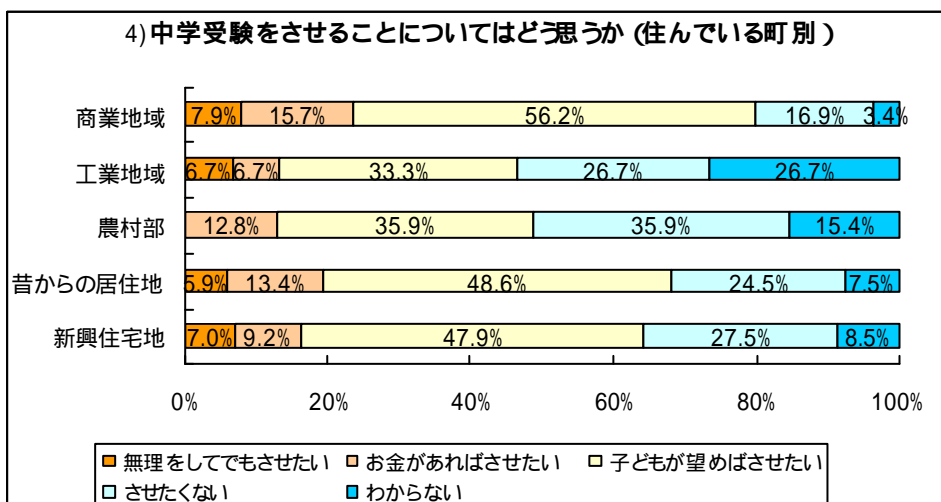
(2) 中学受験をさせることについて

子どもが望めばさせたい」が最も多く48%、無理をしてでもさせたい(6%)、お金があればさせたい(13%)も合わせると、中学受験をさせたい親は67%を占める。させたくないと答えたのは25%。

	合計	無理をしてでもさせたい	お金があればさせたい	子どもが望めばさせたい	させたくない	わからない
全体	538	33	67	260	134	44
	100%	6.1%	12.5%	48.3%	24.9%	8.2%



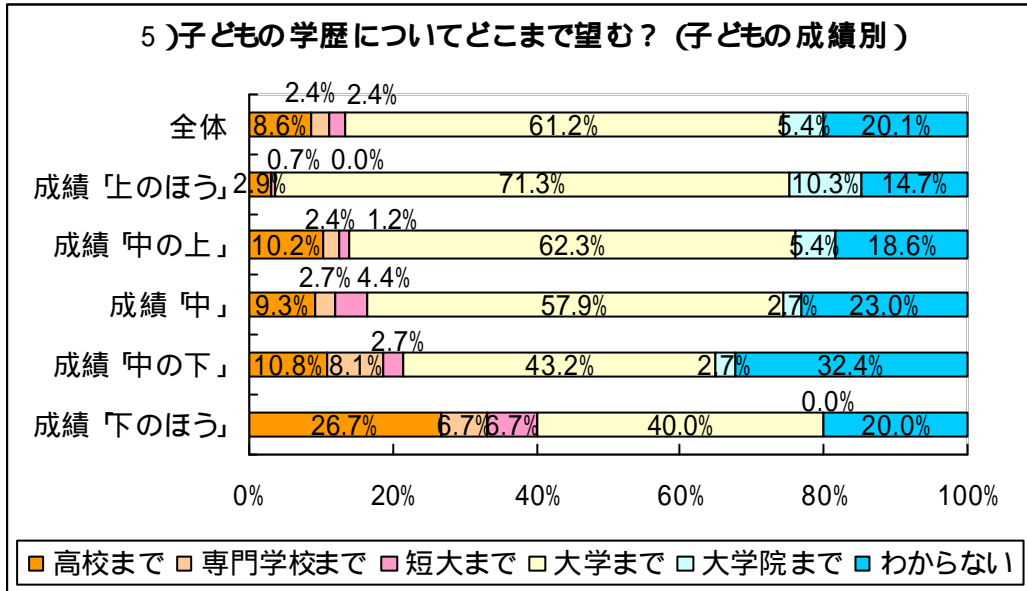
これを地域別に見ると、中学受験をさせたい親の割合がもっとも多いのが「商業地域」、次いで「昔からの住宅地」。「させたくない」と答えた割合が「農村部」で最も多く36%を占める。



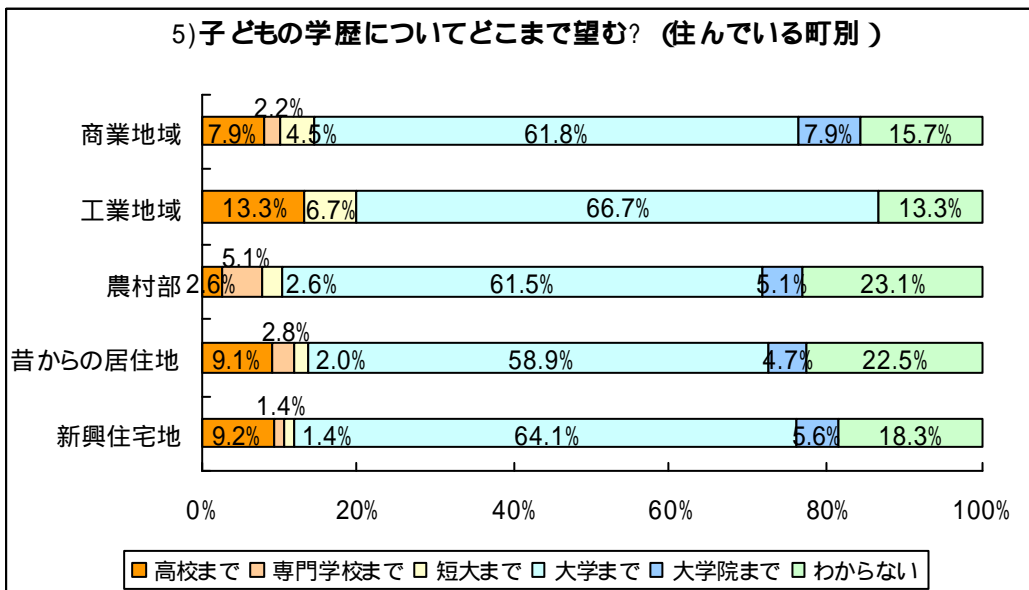


(3)子どもの学歴はどこまで望む？

子どもの学歴は、全体では「大学まで」を望む親が最も多く61%、「わからない」と答えた人も20%に上る。これを子どもの成績別で見ると、「上のほう」では、「大学院まで」を望む親が多く10%となっている。「わからない」と答えた親は「中の下」が最も多く、32.4%を占め、「高校まで」と答えた親は「下のほう」で最も多く27%を占める。

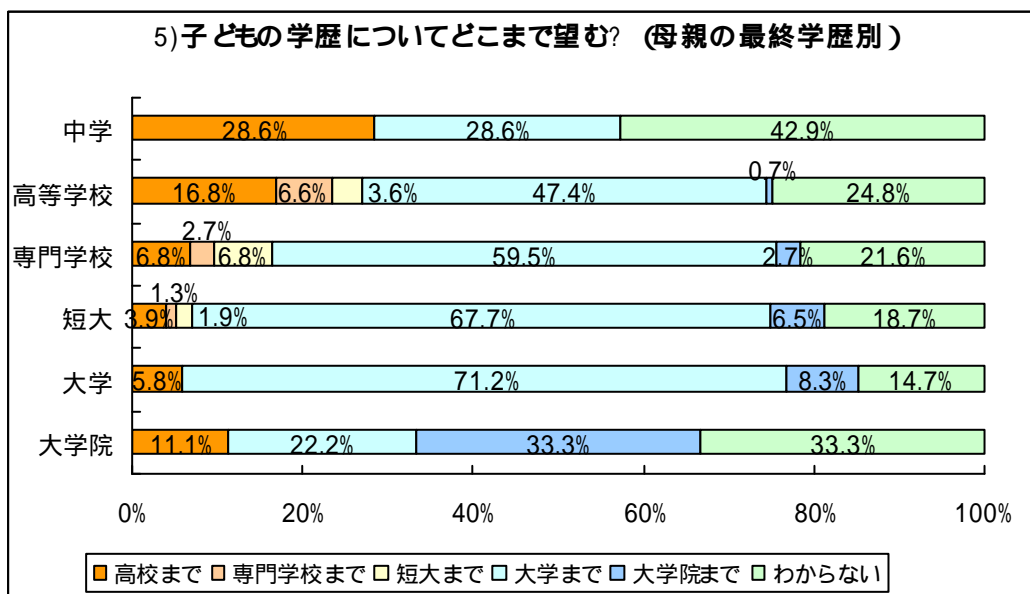
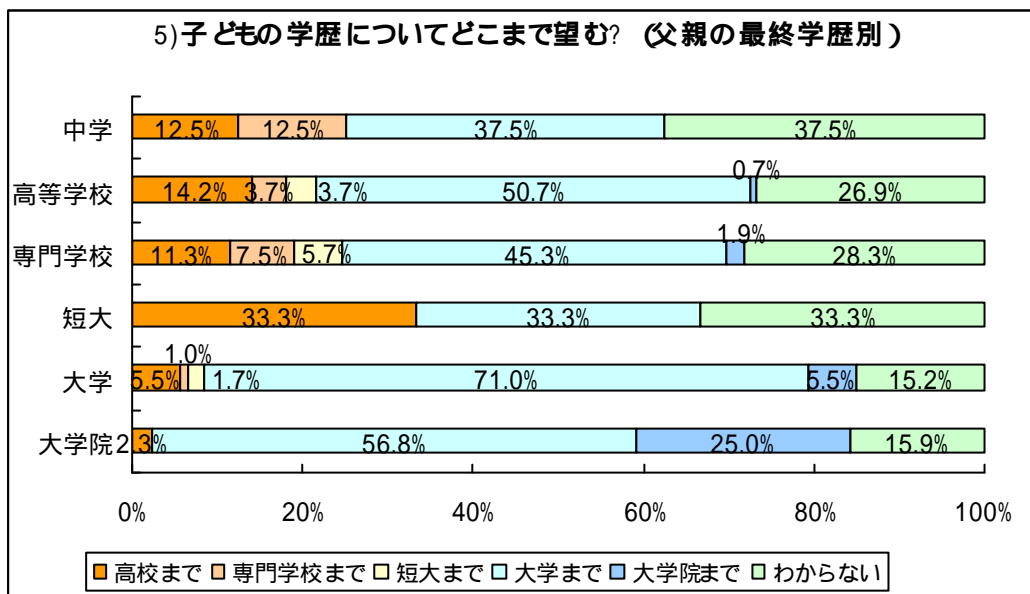


住んでいる地域別で見ると、「高校まで」と答えたのが最も多いのは「工業地域」で13.3%、「専門学校まで」も「工業地域」が最も多く7%。また、「大学院まで」と答えた割合が最も高かったのは「商業地域」8%、「工業地域」では0であった。



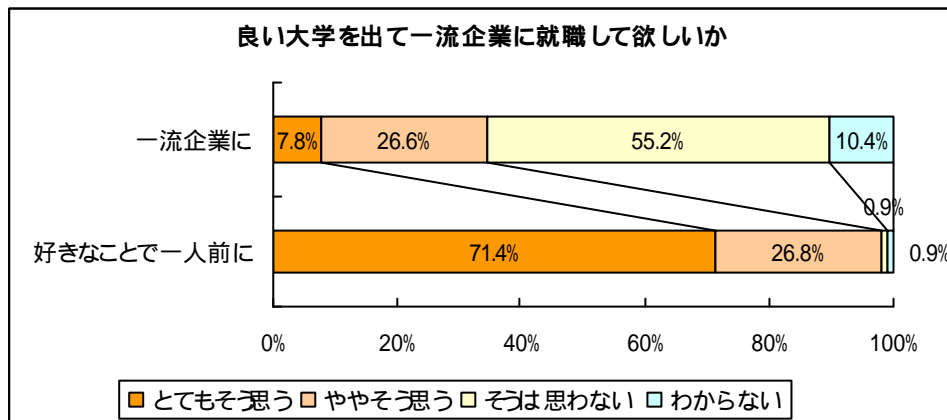


親の学歴別で見ると、父親、母親とも、どの層においても「大学まで」と答えた人が最も多い。私の親世代であれば、自分が中学卒なら子どもはせめて高校まで、自分が高校卒なら、子どもはせめて大学まで、というように、親よりは上を目指して欲しい」というのが一般的ではなかっただろうか。今回の調査でもその傾向はあるものの、かならずしも「自分を超越て欲しい」という回答ばかりではなく、大学卒の親でも「高校まで」「専門学校まで」でいいと答えた人がいたことは印象的だ。





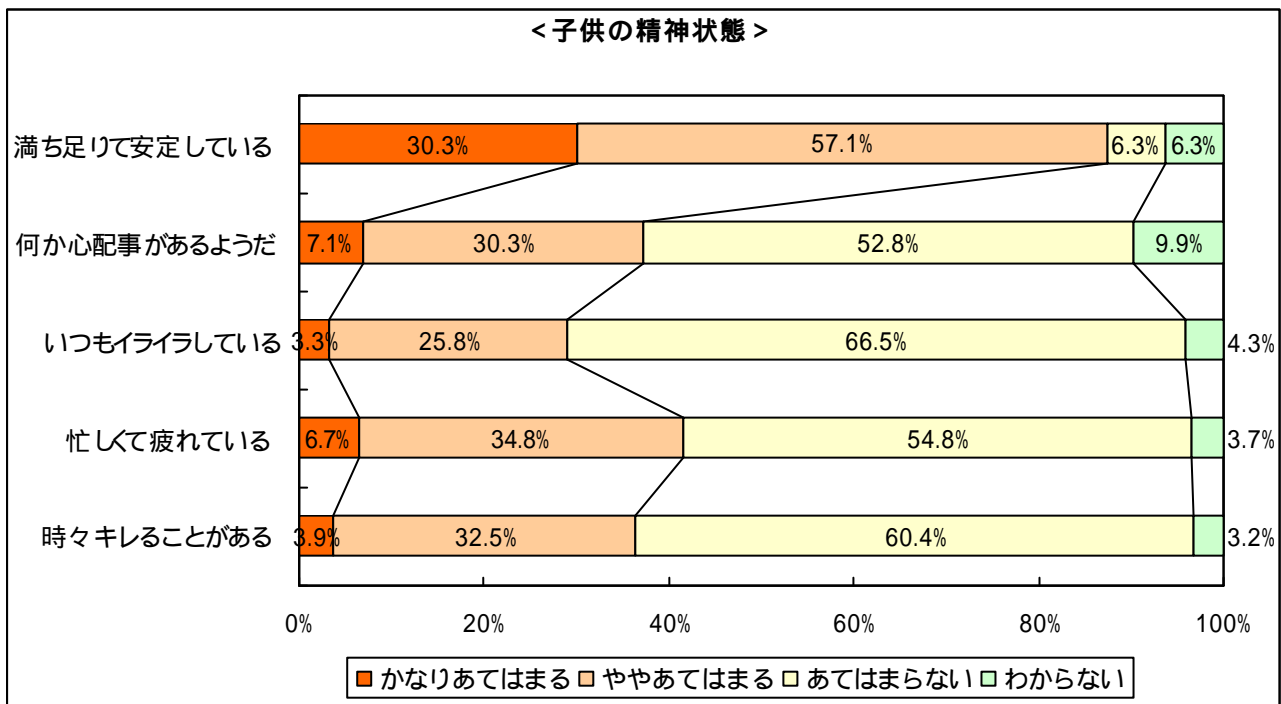
(4)よい大学を出て一流企業に就職して欲しいか
終身雇用、年功序列の原則が崩れ、リストラ不安が広がっている影響か、「そうは思わない」が最も多く55%となった。一方、好きなことで一人前になって欲しいかどうかを聞いた質問では、「とてもそう思う」が71%、「ややそう思う」が27%、計98%となった。





【4】子どもの精神状態

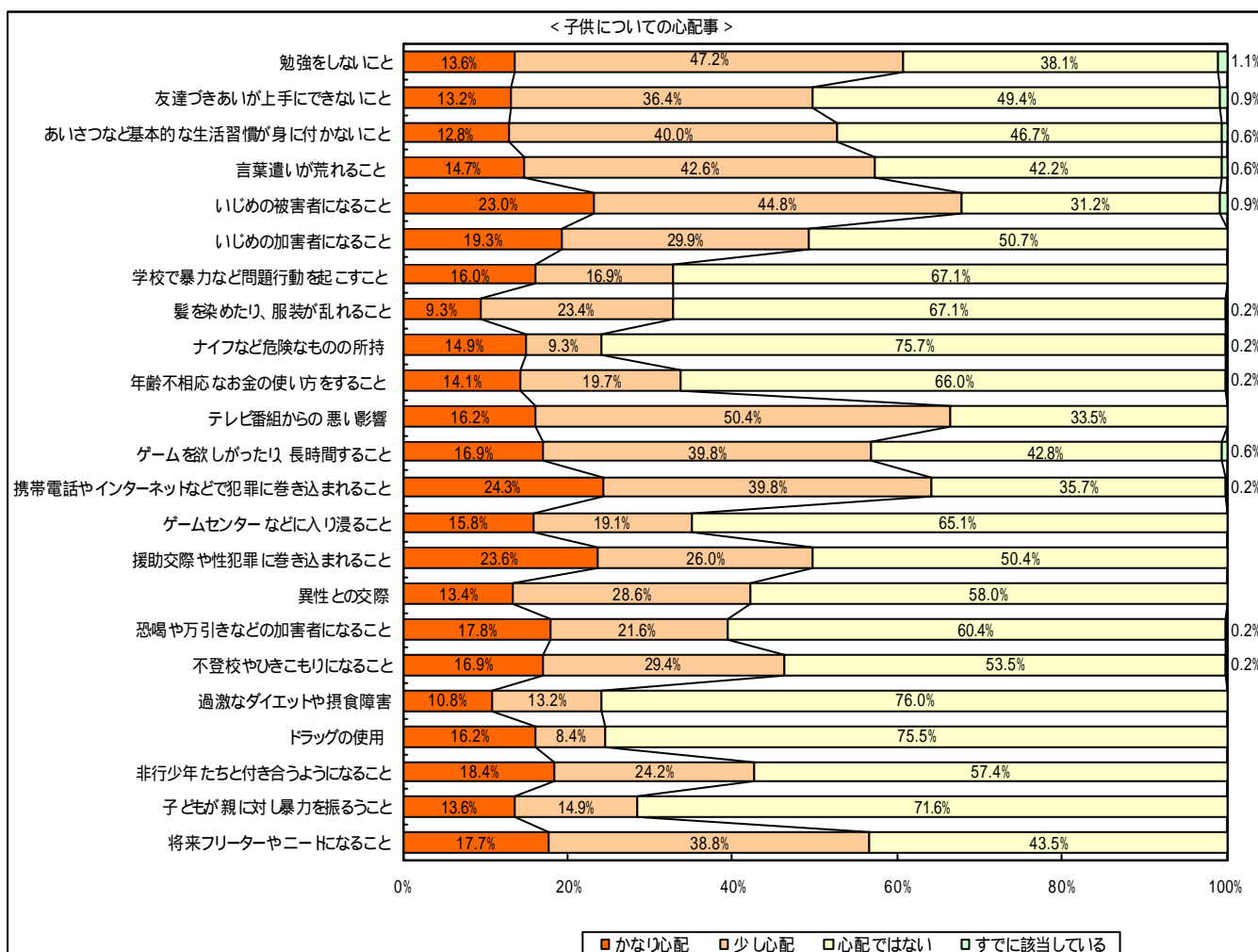
今回の回答者に限っては、満ち足りて安定している子どもが多く87%を占めるが、それでも「いつもイライラ」していたり「忙しくて疲れている」など、ストレスが高まっていることが伺える。36%の子どもは、「時々キレルことがある」と答えている





【5】子どもについての心配事

1～23の項目について、「心配ではない」と断言できる親は項目によって大きくばらつきがある。「かなり心配」が20%を超えるのは、「いじめの被害者になること」「携帯電話やインターネットで犯罪に巻き込まれること」、「援助交際や性犯罪に巻き込まれること」。「少し心配」もあわせると「勉強をしないこと」「言葉遣いが荒れること」「テレビ番組からの悪影響」「将来ニートやフリーターになるのではないか」など、親の心配は尽きないようである。

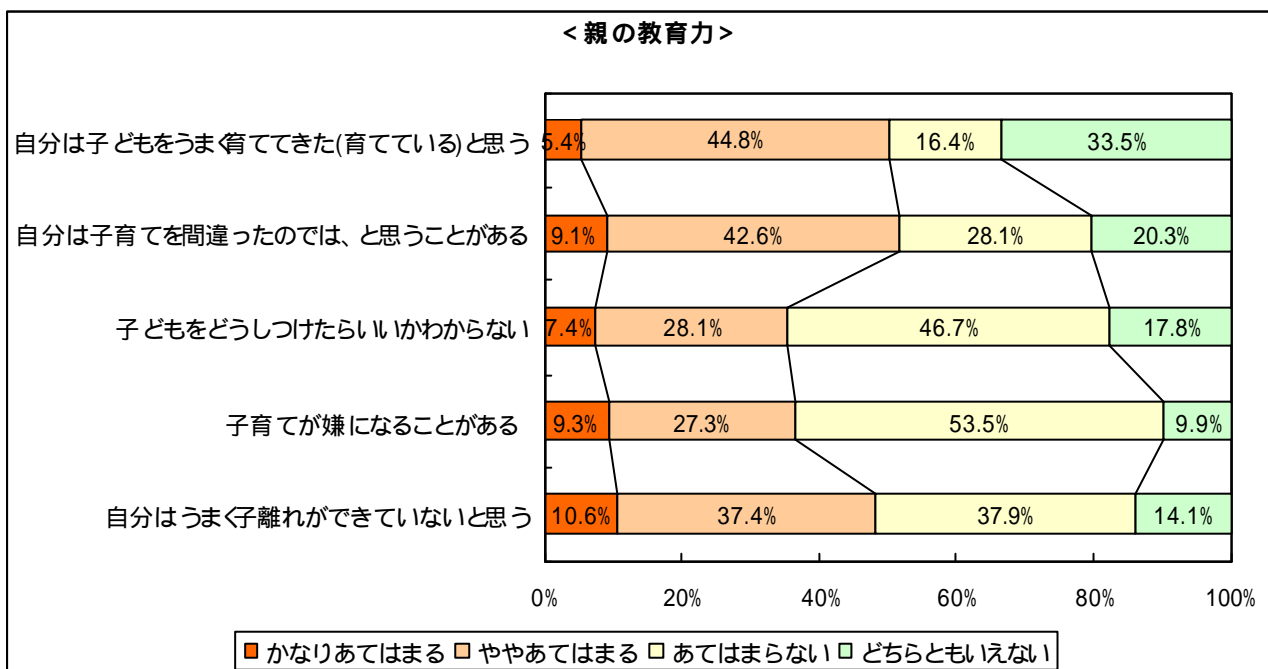




【6】親の教育力について

(1) 自分は子育てを間違ったのか

「子どもをうまく育ててきたかどうか」については、「かなりあてはまる」ややあてはまる」合わせて約半数を占めるが、同時に、「子育てを間違ったのでは」と思う親も、過半数を占めている。また、「子どもをどうしついたらいいかわからない」親は、35%、「子育てが嫌になることがある」親は37%を占める。一方で、「うまく子離れできていない」と思う親は48%。子どもをかわいい、と思いつつも、子育ての難しさに戸惑う親の苦悩が垣間見えるようである。

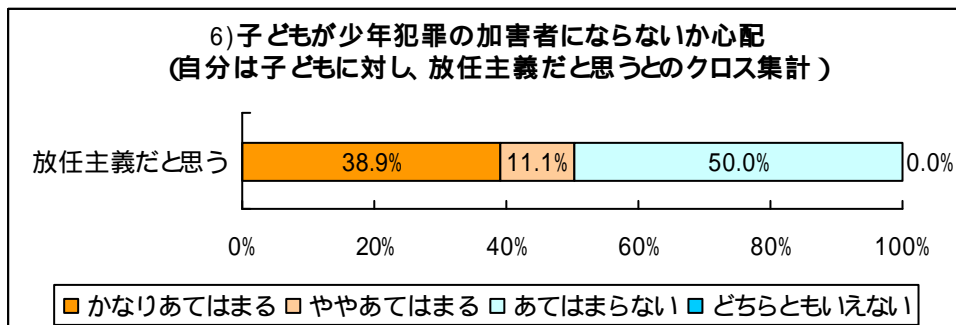
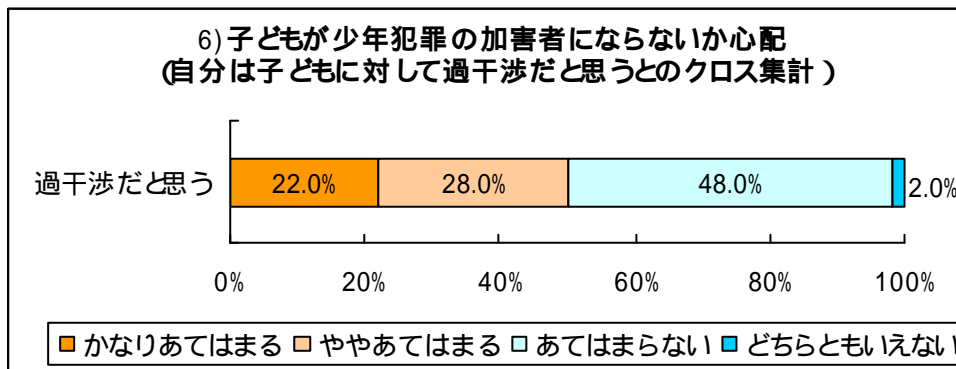
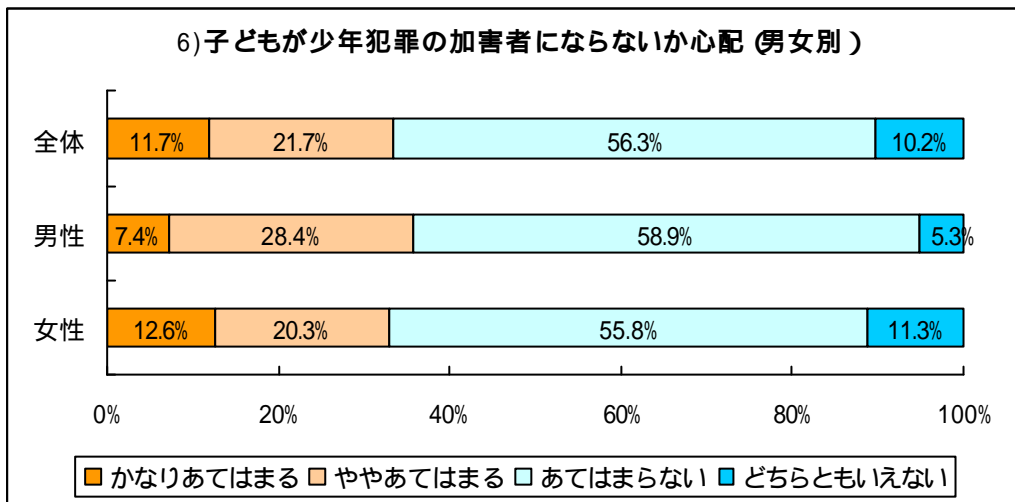




(2) 我が子が少年犯罪の加害者にならないか心配

全体では、34%が「子どもが少年犯罪の加害者にならないか」との不安にとらわれている。母親と父親の別で見るとその不安は、母親のほうがより大きいことがわかる。

子育ての方針が「過干渉かどうか」、「放任主義かどうか」との相関を見たところ、子どもが少年犯罪の加害者にならないか」という心配は、放任主義の傾向の親のほうが、やや強いことがわかる。

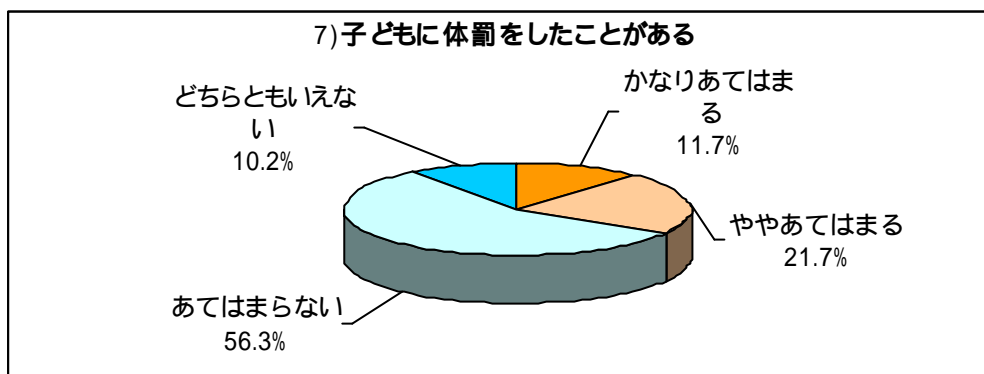




(3) 子どもに体罰をしたことがある？

児童虐待が問題になる昨今。たたかれて育った子は後に自分の子をたたいて育てるようになる、と言うが、親たちは、子どもに対して体罰をしているのだろうか。「かなりあてはまる」と答えた親が12%、「ややあてはまる」が22%、合わせて34%、3人に一人程度の親が体罰をしていることになる。「どちらともいえない」という回答は、この設問の場合、ありえないと思うのだが、軽くたたく程度の行為を差しているのだろうか。

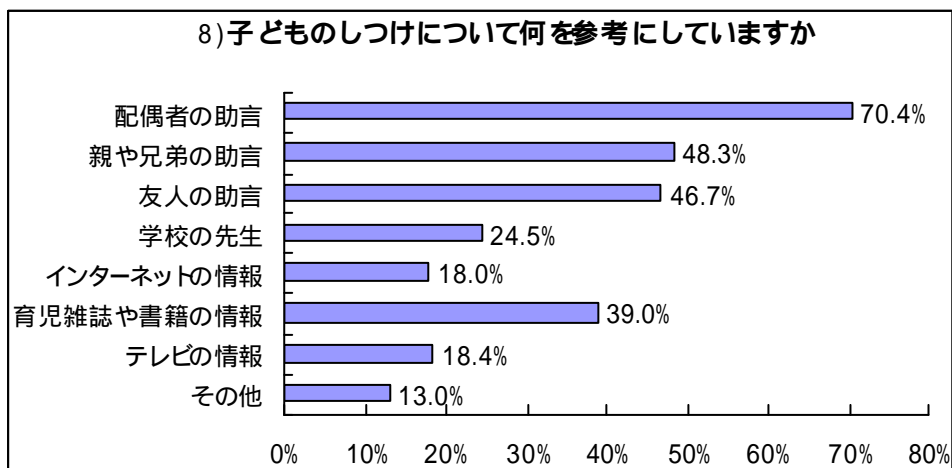
	合計	かなりあてはまる	ややあてはまる	あてはまらない	どちらともいえない
全体	538	53	252	185	48
	100%	9.9%	46.8%	34.4%	8.9%



(4) 子どものしつけについて何を参考にしているか

最も多いのが「配偶者の助言」で70%。「親や兄弟」48%、「友人」47%がそれに続く。「学校の先生」も25%を占めた。身近に相談相手があり、一人で密室育児に陥っている、という状況は、今回の調査対象に関してはみられない。

	合計	配偶者の助言	親や兄弟の助言	友人の助言	学校の先生	インターネットの情報	育児雑誌や書籍の情報	テレビの情報	その他
全体	538	379	260	251	132	97	210	99	70
		70.4%	48.3%	46.7%	24.5%	18.0%	39.0%	18.4%	13.0%



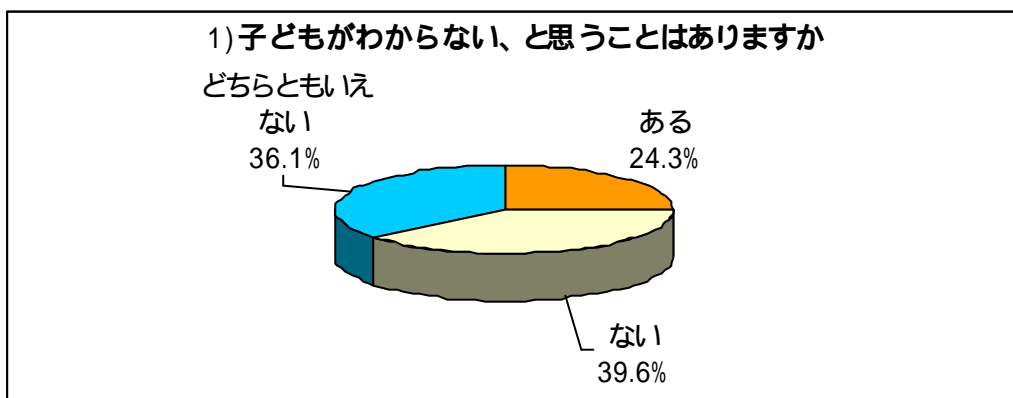


【7】子どもと思春期

子どもがわからないと思うことはある？

「ない」と断言できる親は40% .24%の親は「ある」と答えている。

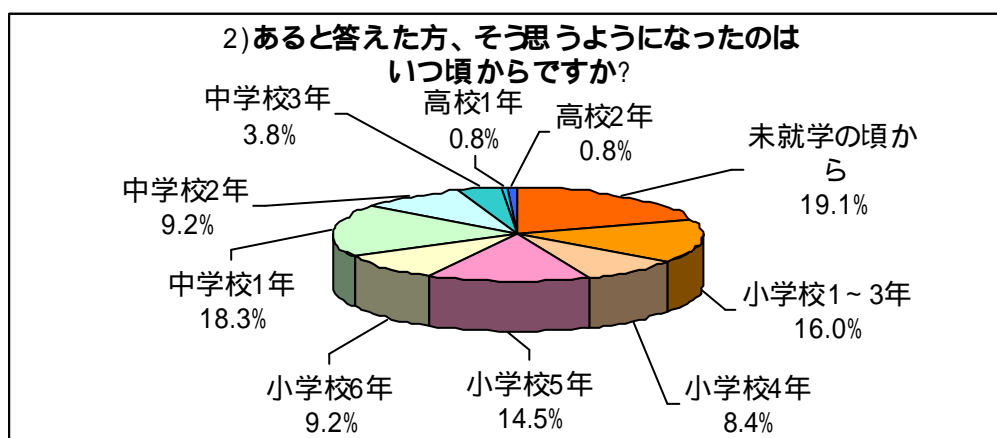
	合計	ある	ない	どちらともいえない
全体	538	131	213	194
	100%	24.3%	39.6%	36.1%





そう思うようになったのは子どもが何年生のころからかを聞いたところ、未就学の頃からが最も多く、19%を占めた。次いで多かったのが中学1年生で18%、以下小学校1～3年で16%、小学校5年生で14.5%と続く。

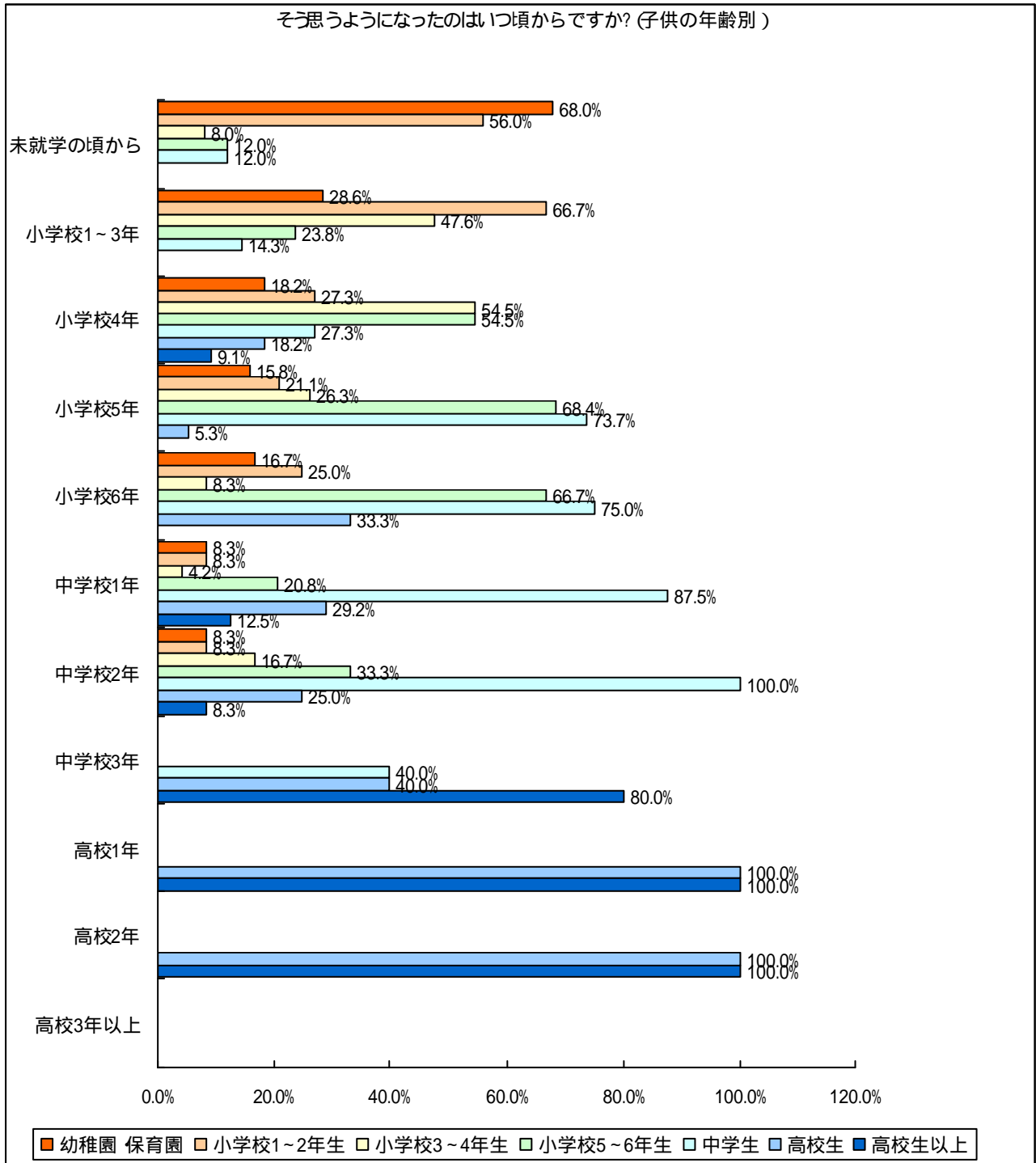
	全体	
合計	131	100%
未就学の頃から	25	19.1%
小学校1～3年	21	16.0%
小学校4年	11	8.4%
小学校5年	19	14.5%
小学校6年	12	9.2%
中学校1年	24	18.3%
中学校2年	12	9.2%
中学校3年	5	3.8%
高校1年	1	0.8%
高校2年	1	0.8%
高校3年以上	0	0.0%





子どもの現在の学年と、「子どもがわからないと感じた時」との相関を見てみると、現在中学生の子どもの場合、「子どもがわからなくなる」ピークは中学1年と小学校5年である。これは、一般的に、思春期とか反抗期と呼ばれる時期と重なる。

子どもが未就学児、あるいは小学校低・中学年の場合を見ると、子どもがごく小さいときからすでに「子どもがわからない」と感じている親がいることがわかる。

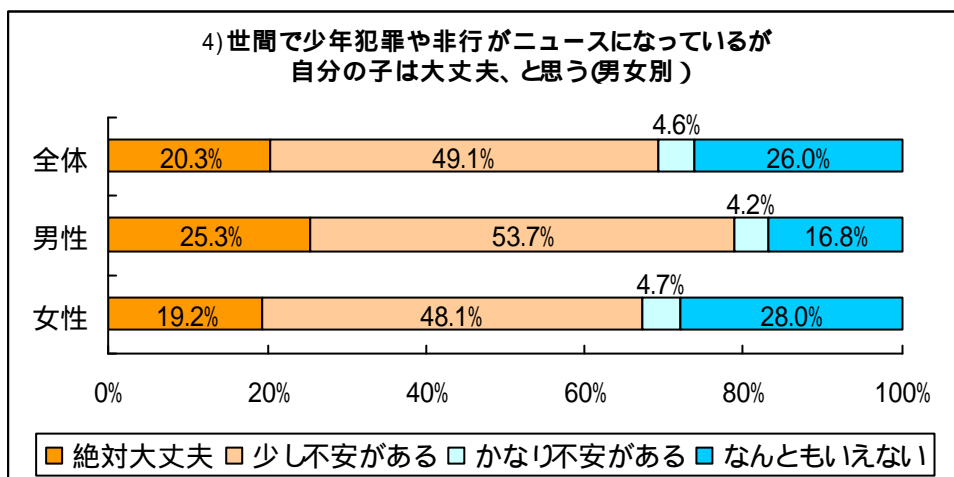




(2)世間で少年犯罪や非行がニュースになっているが、自分の子は大丈夫？

絶対大丈夫」と答えた親は20%、「かなり不安」「少し不安」な親は44%に及ぶ。

父親、母親別で見ると、絶対大丈夫と言い切れるのは父親に若干多いが、いずれも4~5%が「かなり不安」と感じており、不安の強さは変わらないようである。



子どもの年齢別に見ると、絶対大丈夫と答えた割合がもっとも多いのは高校生以上で46%次いで、高校生29%、中学生24%、となっている。高年齢の子どもほど不安が少ないのは、一番思春期で問題のある現時点で大丈夫ならこの先も大丈夫だろうという気持ちが働くためであると考えられる。低年齢の子を持つ親の不安のほうが高いのは、これからまだまだ未知の部分が多いからであろう。

